

## は じ め に

札幌をとりまく山々が、白い雪をいただく頃は、年報出版の時期でもあります。

本年は、札幌市5カ年計画策定の年ですが、ここ数年実行された研究所の試験研究のあり方や進み具合をふり返るよい機会でもありました。来る5カ年の行政ニーズに向けて慎重に、しかも時代を見すえた新しい試験研究の計画、実行に取り組んで行きたいと思います。

平成2年度は国際協力に忙しい年でありましたので、この第18号をまとめる段階になり内容が貧弱になるのではないかと案じておりましたが、幸い充実した内容を盛ることが出来満足しております。

まず本年3月に札幌で開催されたユニバーシアード冬季大会での選手のドーピング検査と女性検査を私ども研究所が中心となってい、ひきつづき3カ月間、中南米の医師5名を受け入れてJICA委託の「第1回新生児、乳児マス・スクリーニング検査技術」の研修コースを実施しました。国際化の波は輸入食品や輸入感染症などの検査にも及び業務が著しく増加し、多方面から私どもの協力を期待が高まっています。このような状況の中で各所員が情熱を傾けて行った検査研究の記録をまとめることが出来、今、深い感動を覚えております。

どうぞ、忌たんのないご意見と今後とも、ご指導下さいますようお願い申し上げます。

平成3年12月

札幌市衛生研究所長

菊 地 由生子